

〔論文〕

幼児期の子どもの感性と気づきについての 保育者の理解に関する研究

—保育者と保育者養成校学生の共通点と差異点の比較—

中 根 佳 江
Yoshie Nakane

大阪総合保育大学
児童保育学部 非常勤講師

瀧 川 光 治
Koji Takigawa

大阪総合保育大学
児童保育学部

本研究では、「幼児期の子どもの感性と気づきについての保育者の理解」に着目して、幼児期の子どもの感性と気づきを保育者と保育者養成校学生（以下学生と示す）がどのように気づいているか、またどのように考えているかについてアンケートを行い、分析を行った。そして幼児期の子どもの感性や気づきについて、保育者及び学生がそれぞれ日頃から大切に考えていることや心がけていることについて質問し、その回答をKHコーダーを用いて分析を行った。その結果、学生よりも保育者の方が、幼児期の子どもの感性や気づきに関して、日常の保育を通して、幼児の動きをイメージでき、具体的な回答をしていた。保育者も学生も、幼児期の子どもの感性や気づきに共感することを大切に思っていることは共通していたが、心がけていることに関しては、保育者の方が具体的に意識して、幼児を主体的に捉えて考えている回答であった。このことから、幼児期の子どもの感性や気づきを理解するためには、幼児期の子どもの感性や気づきに共感することと、保育者や学生自身が、感性やさまざまなものに対する気づきが豊かであることが必要であることが分かった。

キーワード：保育者、保育者養成校学生、幼児、感性、表現

I. はじめに

幼児期に身の回りの様々なことについて感覚や感性を育むことについては、『保育所保育指針』など¹⁾では、領域「表現」の中で表1のように位置付けられている。

表1のように、『保育所保育指針』にある領域「表現」の内容には、「日々の生活や保育の中で様々なものに触れる中で、音、形、色、手触りに気づいたり、感じたりすること」が示されている。そして、内容の取扱いでは、乳児は「子どもの興味や関心を踏まえる」「遊びを通して感覚の発達を促される」、1歳以上3歳未満児は「身近な自然や身の回りのこと物に関わる」「諸感覚を働かせる」と示されている。3歳以上児は「豊かな感性は身近な環境と十分に関わる中」「風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気付くようにする」と示されている。このように「生活の中での様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなど」に気づいたり、感じたりすることが示されて

いる。また豊かな感性を育むためには、「風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気付くようにする」という日常生活などで様々な音や物に気付くことが求められている。

音に関して吉永（2013）は、表現の生成におけるインプットとしての、音を聴いて「感じる・考える」といった心的な働きを音感受の重要なプロセスと見なし、「音感受」を「幼児が身のまわりの音を聴いてその印象を感じ、共鳴し、感情が起こり、さまざまな連想を引き起こすこと」と定義している。さらに「音感受の質を上げるため、保育者自身の音感受力が不可欠であるが、それは、幼児の素朴な音感受に気づき、それに共感することで育まれる。幼児の音感受に気づくようになれば、それを豊かにしていくような音環境への配慮や工夫が考えられるようになり、聴覚的な出会いの豊かになった音環境において、幼児の音感受の質が高まっていく。」と述べている²⁾。

それでは、幼児期の子どもの感覚や感性について保育者はどのようなことに気づいているのだろうか、また保育者自身は日常生活の中でどのように感じているのだろうか。筆者が保育現場で園内研修を行う中で、子どもと保育者のやり取りを見ていて、子どもが感じていること

大阪総合保育大学
〒546-0013 大阪府大阪市東住吉区湯里6丁目4-26
y.nakane0125@gmail.com

表1 領域「表現」の中の感覚や感性への言及（下線は引用者）

乳児保育に関わるねらい及び内容 「身近なものと関わり感性が育つ」	ねらい「 <u>身体</u> の <u>諸感覚</u> による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する」 内 容「生活や遊びの中で様々なものに触れ、 <u>音、形、色、手触り</u> などに気づき、 <u>感覚の働き</u> を豊かにする」 内容の取扱い「玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、その時々の子どもの興味や関心を踏まえるなど、 <u>遊びを通して感覚の発達が促されるものとなるように工夫すること。</u> 」
1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容 領域「表現」	ねらい「 <u>身体</u> の <u>諸感覚</u> の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。」 内 容「生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。」 内容の取扱い「 <u>身近な自然や身の回りのこと物に関わる中で、発見や心が動く経験が得られるよう、諸感覚を働かせることを楽しむ遊びや素材を用意するなど保育の環境を整えること。</u> 」
3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容 領域「表現」	ねらい「いろいろなものの美しさなどに対する <u>豊かな感性</u> をもつ。」 内 容「生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。」 内容の取扱い「 <u>豊かな感性は、身近な環境と十分に関わる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来ことなどに会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々な表現することなどを通して養われるようにすること。その際、風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること。</u> 」

を気づいている保育者と、子どもが感じたことを表現しても気づいていない保育者がいることが分かった。また、保育者養成校の授業において、学生と話をしていると、大人になるにつれ日常生活の中で、五感を使ってさまざまな変化に気づかなくなっていることが多いと感じることがある。

そこで、本研究は「幼児の感性と気づきについての保育者の理解」に注目して、保育者と保育者養成校学生へのアンケート調査を分析することによって、保育者と保育者養成大学校学生の共通点と差異の比較を行い、幼児の感性と気づきについて、保育者としてどのように理解していくことが必要かということを明らかにしたいと考える。また、共通点と差異を明らかにするために、下記に示す YouTube 動画を視聴し、その動画に基づくアンケートの質問項目を設定し、その記述内容の比較検討を行う。

II. 方法

1. 分析の対象：大阪府内の認定こども園3園に勤務する保育者52名（3園とも園内研修でかかわりのある園である）
及び、大阪府内の保育者養成校に在籍する3年次の学生（以下学生とする）66名（筆者の授業の履修者）を対象とする。
2. 調査時期：2022年9月25日～10月10日
3. 調査方法
 - （1）調査の手続き
 - ・調査の趣旨と概要の説明と依頼

- ・各自、こちらが提示した YouTube 動画を見る。
<https://www.youtube.com/watch?v=BVzI9605pHg>
- ・保育者、学生別の Google フォームの同じ7項目の質問に回答する。
- ・保育者、学生それぞれのアンケートの回答を1項目ずつ纏める。
- ・質問7のみ KH コーダー分析^{注1)}を用いて分析を行う。

（2）調査で使用した動画の概要

YouTube 動画の作成者：認定こども園あとりえらば遊育園（大阪府摂津市）

動画タイトルと時間：「“手”からはじまる物語」（約3分）

内容：動画は2つのパートから成り立っており、前半部分は1歳児クラスの寒天での感触遊び場面、後半は音遊びの場面で構成されている。最初は子どもたちが寒天を触ったり、崩したりして、寒天そのものの素材を探索するような感触遊びの場面で、その途中で寒天を丸い形等に凍らせたものを提供している。その凍らせた寒天をコップに入れたときに音が鳴ったことに気づいた場面までが前半部分である。後半はそこから展開した場面として、テラスで意図的に音を鳴らす遊びや、保育室内での音で遊び、さらに散歩でいろいろな音を発見するという流れになっている動画である。

4. 倫理的配慮

本研究を行うに当たり、アンケートを依頼した認定こども園3園の園長及び保育者、保育者養成校の学生に、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることは無いことを説明し、アンケートの中で回答を以って同意したこととした。

5. アンケート内容

アンケート内容としては、動画を見て、質問1と質問2に子どもの気づきに関する項目を取り上げ、質問3から質問6では、子どもと同じようなアンケート対象者の気づきに関する項目を、さらに、質問7で子どもの感性や表現に関して大切に考えていることや心がけていることに対する項目を取り上げた（具体的には以下の項目）。

質問1 この動画の1歳児の子どもたちは「寒天を触って遊んでいる」ときに、どんなことを感じたり、どんなことに気づいていると思いますか。「こんなことを感じているのではないか」「こんなことに気づいているのではないか」と考えたことを書いてください。

質問2 この動画の途中に出てきた「凍った寒天がコップにあたって音がなったとき」や「凍った寒天同士があたって音がなったとき」に、どんなことを感じたり、どんなことに気づいていると思いますか。「こんなことを感じているのではないか」「こんなことに気づいているのではないか」と考えたことを書いてください。

質問3 （自分の体験についてお答えください）動画では音の違いに気づいた1歳児の様子を取り上げていましたが、自分自身が「何か鳴るものの個数の違いや、大きさの違い」といった音の違いに気づいたことがありますか。

選択回答 ある・ない

質問4 3の質問であると答えた方は、具体的に書いて下さい。

質問5 （自分の体験についてお答え下さい）動画では、子どもたちは、いろいろな音を発見しましたが、自分自身がこの1週間ぐらいで、「こんな音に気づいた」ということがありましたか。普段では自分で意図的に鳴らさない音や、いつもはあまり気づいていなかったけど、こんな音が鳴っていたとか、ビックリした音など、幅広く考えてくださって結構です。

選択回答 ある・ない

質問6 5の質問であると答えた方は、具体的に書いて下さい。

質問7 子どもの感性や表現を保育者として、保育者養成校学生として、日頃からご自身が大切に考えていることや、心がけていることがあれば、具体的に書いて下さい。

6. KHコーダーによる分析方法について

質問1から6までにおいては自由記述の回答内容をそのまま量的に多いもの順に表に整理したが、質問7についてはKHコーダーでクラスター分析及び共起ネットワーク分析を行った。

(1) 共起ネットワーク図の作成について：出現回数3以上、共起関係（数）の描画数60の設定で描き出されたネットワーク図を作成した。

(2) 共起ネットワークから見出されたカテゴリー内の抽出語について：このカテゴリー内の抽出後について、KWICコンコーダンスのコマンドを用いて、対象の抽出語を含むテキストデータの一覧を得た。

(3) 抽出語が使用されている文脈について：カテゴリー内の他の抽出語とどのような文脈で使用されているか、あるいは他のカテゴリー抽出されたごとの関係や傾向を探ることで、そのカテゴリーで述べられていたことを数点まとめた。

Ⅲ. 分析結果

アンケート対象者の保育者52名の内、有効回答者45名、学生66名該当者中欠席者を除く有効回答者50名の回答の分析を行った。

以下に、自由記述回答である質問1、2、4、6については、回答の短文キーワード化を行い、カテゴリー別に表にまとめ、保育者と学生の比較を示す。また、有無についての質問3と5については集計を行い、質問7についてはKHコーダーによる分析結果を示す。

1. 質問1について

質問1は、1歳児の子どもが寒天を触って遊んでいる様子の動画で、その場面の中で子どもがどのように感じているか、どんなことに気づいているかについての理解を言語化する質問である。

表2-1～2-6で示す通りキーワードを「感触」「気づき」「思い」「色」「形」「音」「光」の7つのカテゴリー化を行った。

カテゴリーで保育者と学生との比較の中で、保育者は「音」「光」というカテゴリーに含まれるキーワード

幼児期の子どもの感性と気づきについての保育者の理解に関する研究

がなかった。カテゴリーでは、「気づき」「思い」のカテゴリーが保育者のキーワードが学生のキーワードより多

い。保育者の回答の中には、普段保育をしている中での様々な子どもに接している経験を踏まえて、子どもが喜

表2 質問1についての保育者と学生の回答比較（表2-1～表2-6）
表2-1 「感触」について

保育者		学 生	
冷たさ	13	柔らかい	7
寒天の感触に気付く	6	冷たい	6
やわらかい	6	プルプル感	5
ツルツル	5	ぶにぶにしている	3
プルプル	4	ツルツル	2
ぶにぶにしている	3	触り心地	2
手の感触を楽しむ	3	寒天の感触	2
感触の気持ちよさ	3	今までに触ったことない	2
(感触) 握ったりついたりするうちに柔らかい感触になる／プルンとしている／握ったときの感触／簡単な感触(行為) そっと触る／もう1回触ってみようかな／触るのどうしようかな	1	(感触) ひんやりとした感触／つるつるして気持ちいい／ゼリーとは違う感触／すべすべ／サラサラ／ぐちゅぐちゅしている	1

表2-2 「気づき」について

保育者		学 生	
形や色が変わる	5	ぶるんとしてゼリーに似ている	4
握もうとするとつぶれてしまう	4	強く握ればつぶれる面白さ	2
(触り方) 力を入れると崩れるんだ／握ったり押したりするとつぶれる／握り具合でつぶれたり持ったりすること／やさしく握ると弾力を感じる／握るとパラパラする／触り方で感触が違う／手にくっつく／そっと乗せたら形が崩れず持てる／指がずばっと刺さった／手で触って目で見て確認する (質感) 触り方によって形や感触の違い／握ると形がなくなる柔らかさに気付く／見たときの感じと触ったときの感じの違い／手ですくったら透明できれいだな／ゼリーみたいだな／温度	1	(触り方) 触ったら崩れてしまう／握るとつぶれる／潰してみるとおもしろい／握っても無くならず指の間から出てくる (質感) 感触が不思議／様々な感触があると気づく／持ったら重たい／崩れ方／温度の変化／少し透けていることに気付く (その他) 液体でもなく固体でもない／自分で触れて確かめる／大きさ	1

表2-3 「思い」について

保育者		学 生	
気持ちいいな	6	触るのが楽しい	4
不思議だな	3	おもしろい	3
これ何？	3	不思議な感じ／気持ちが良い／美味しそう	1
面白い	3		
食べられるか	2		
(感触・質感) 不思議な感触／初めての感触に不思議に感じる／透明できれいだな／手障りの楽しさ／ツルっと滑る面白さを感じる／触る前は固いのかな？／これはどんな感触なのか (触り方) どのぐらいの力で触ろうか／手に触るのが嫌だからスプーンでしてみよう／触りたくないけどスプーンで混ぜたり掬ったりするのが楽しい／触ってみたらどうなるか／ぎゅっと握ってみよう (気持ち) 怖いものでは？と触ることに抵抗を感じる／気持ち悪い／気持ち悪いけど触りたい (その他) 口に入りたいな／驚く／興味を惹かれてすぐに触りたくなる／繰り返しいろいろ試して楽しんでいる	1		

表2-4 「色」について

保育者		学 生	
色を見ている	2	色が変わる楽しさ	2
きれいな色だな／色を感じる／同じ色／色を楽しむ／いろいろな色がついているな	1	いろいろな色がある	2
		色を混ぜるのが楽しそう／色がきれい／色	1

表2-5 「形」について

保育者		学 生	
今まで見たことのない形／形を感じる	1	いろんな形に変わっていく	4
		形	1

表2-6 「音」「光」について

保育者		学 生	
(該当なし)		潰したときの音	2
		ベチベチと音が鳴る／たたきつけたときに出る音／音が鳴る	1
		光	1

んでいる、楽しんでいるような回答だけではなく、子どもの気持ちをくみ取って触ることを嫌がるような回答もあった。学生は、子どもの「気づき」「思い」については、想像することが難しかったので、キーワードが出現しにくかったと考える。また「音」に関しては、自分が触ったらどんな音が出るかということを想像して回答している学生もいたが、保育者の質問に沿って回答がなさ

れているため音に関する記述はなかった。

2. 質問2について

質問2は、1歳児の子どもの凍った寒天がコップに当たって音がなったり、凍った寒天同士が当たって音がなるような遊びをしている様子の動画で、その場面の中で子どもがどのように感じているか、どんなことに気づい

表3 質問2についての保育者と学生の回答比較 (表3-1～表3-3)
表3-1 「気づきについて」

保育者		学 生	
音がなるという発見	15	数や大きさで音が違う／コップと寒天同士では音が異なる	7
どこから音がするのか不思議	3	コップと寒天同士では音が異なる	5
(材質・個数) 寒天の大きさによって音が違う／数で音が違う／凍った寒天の容器に入れて1つめと2つめの音の変化を楽しむ／寒天同士とコップに当たる音は全然違う／固いもの同士は音がなる (行為) コップを振ると音がする	2	(材質・個数) 凍らせるとコップに入れたときの音／他にも音が鳴るものがあるか (行為) 当たると音がなる	2
(材質・個数) 凍っていないときとは音が違う／寒天の大きさで音の大きさが変わること気づく／沢山入れるとどんな音になるか／凍った寒天同士が当たると可愛い音がなる (行為) 混ぜると音がする／入れ方、振り方や混ぜ方で音が違う／コップに入れる遊びを楽しむ行為から生まれた発見／落としたらこんな音がなる／入れてみたらどうなるか(感触) つかもうとすると逃げる／触っていると小さくなる (音) 他にもどんな音がなるか／自分の知っている音の近いものが鳴った／突然音がなり、保育者の方を見と思う(その他) 言葉で表現できるかな／さっきは鳴らなかったのにどうして／お水が出てくる／他にもどんな音がなるのか	1	(材質・個数) ぶつかるとものによって音の高さが違う／違う色でも同じ音になるか／違う物を入れるとどんな音になるか／手に持っているときと机に置いているときの音が違う／1つでは1つの音しか出ない／コップ以外に入れるとどんな音がなるか／固さで音が違う (行為) もう1回当たるともう1度音がなるか (その他) 予想外の出来事にびっくりした	1

表3-2 「思い」について

保育者		学 生	
もう1回音をならしたい	8	凍った寒天から出る音が面白い／音になるのが楽しい／興味注がれる／もう1回音が出るかやってみたい	1
楽しい	5		
面白い	3		
嬉しい	2		
もっと音を聞きたい／何個も入れたい	1		

表3-3 「音」「感触」について

保育者		学 生	
いい音だな	2	(該当者なし)	
心地よい音	1		
冷たいな	1		

表4 質問3「自分自身のことで音の違いに気づいたこと」の有無人数

	保育者	学 生
ある	24	31
ある(コメントなし)	2	0
ない	19	19

ているかについての理解を言語化する質問である。

表3-1～3-3で示す通り、「気づき」「思い」「音」「感触」の4つのカテゴリー化を行った。学生は「音」「感触」のカテゴリーでは回答がなかった。保育者は「気づき」に関する回答が多く、保育において子どもの様子が分かっているので、回答がしやすかったと考える。

3. 質問3及び4「自分自身のことで音の違いに気づいたこと」について

質問3では自分自身が「何か鳴るものの個数の違いや、大きさの違い」といった音の違いに気づいたことがあるかの有無についての質問で、質問4は質問3で「ある」と回答した人のみ、それを具体的に記述してもらった。

表4で示されたように、ある人が保育者は26人(コメントなし2名含む)、学生31人と学生のほうが5人多かった。無い人は、保育者、学生が同数の19人である。

表5-1～5-8では、質問3で「ある」と答えた人に、具体的に回答するように求め、キーワードを「自然物」「マラカス」「遊び」「食べ物」「水・氷」「素材」「楽器」「物」の8つのカテゴリー化を行った結果を示した。学生は、大学の授業で経験したことを回答している人が複数いた。「食べ物」のカテゴリーの学生の回答がなかった。保育者は食べ物の素材の音に気づいていた。

4. 質問5及び6「自分自身のことで、1週間で気づいた音」について

質問5では自分自身がアンケート直前1週間でのいろいろな音への気づきについての有無についての質問で、質問6は質問5で「ある」と回答した人のみ、それを具体的に記述してもらった。

表6で示されたように、ある人が保育者は13人(コメントなし1人含む)、学生14人と学生のほうが1人多かった。無い人は保育者32人、学生36人である。

表7-1～7-4では、それぞれのキーワードを「自然物」「物」「身体」「遊び」4つのカテゴリー化を行った結果を示した。「自然物」カテゴリーの中では、学生のキーワードは雨と雷しかなかった。雨や雷は、身近な自然の音で自分の行動に影響があるので気づくのであろう。しかし、風や葉っぱ、虫の鳴き声に関しては、気づいていなかった。反対に、学生の回答の中には、スマホアプリのBeRealの通知音などがあった。生活の中に、電子音のほうが多く感じていることも考えられる。

5. 質問7「子どもの感性や表現を保育者として、保育者養成校学生として、日頃からご自身が大切に考えていることや、心がけていること」について

(1) 保育者について

質問7は、子どもの感性や表現を、保育者として日頃から大切に考えていることや、心がけていることについて

表5 質問4「自分自身のことで音の違いに気づいたこと」の具体的回答（表5-1～表5-8）
表5-1「自然物」について

保育者		学 生	
雨の音（小雨と大粒の音の違い）／虫の鳴き声	1	ドングリを叩いた時（鈍い音や違う音）／風の音（強弱）	1

表5-2「マラカス」について

保育者		学 生	
ビーズの量によって音が違う／ドングリの大きい物は低く、小さな物は高い音になる／思った音と違う／ドングリやボタン、小豆など入れる物で音の高さが違う	1	ビーズや砂の量で音が変わる	1

表5-3「遊び」について

保育者		学 生	
空き缶にドングリを入れる遊び（沢山入れたら大きい音）／入れ込み遊びで形が違くと音が違う／ポットン落としに入れる物や数で音が違う／ペットボトルに石を入れる数で違う／お鍋に石を入れる遊びで沢山入れると大きな音がした	1	カプラが崩れる時、高く積み上げた方が大きな音になる／ペットボトルにドングリを入れる量で音が違う／石を集めて瓶に入れるとき、石の大きさで音が違う	1

表5-4「食べ物」について

保育者		学 生	
お米を洗っているとき／あずきをさわっているとき／食べる前のピーナッツの音で、大きなマメが入っていると思ったが、殻を割ると小さい豆だった	1	（該当者なし）	

表5-5「水・氷」について

保育者		学 生	
グラスに入った水を叩いたとき／氷をコップに入れたとき／コップの水の量が変わると音が変わる／水を使っているとき	1	コップの水の量が変わると音が違う／コップに入れるお湯の量によって音の高さが変わる／水筒の水の多さによって音の大きさが違う／ペットボトルの水の量によって音が違う	1

表5-6「素材」について

保育者		学 生	
ペットボトル／陶器のお皿同士とプラスチックのお皿同士を重ねたときの音／蓋をしている缶の形や蓋によって音の鳴り方が違う／ビー玉	1	ウイナーと銀のスプーンを落としたときの音の差／物差しを机に置き、机からはみ出す部分を強く叩くと音がなり、はみ出す長さで音が違う／長さを変えた物差しの音／容器の大きさや素材の音／乾杯の時、子ども用のコップだけ音が違った／木のおもちゃの素材によって音が違う／大きい物は大きい音がする	1

表5-7「楽器」について

保育者		学 生	
鈴／木琴や鉄琴などの楽器に始めて触れたとき／風鈴（大きさや室内外での鳴り方、大きさによって違う音に聞こえる）／タンブリン	1	木琴／太鼓（大きな太鼓は低く、小さな太鼓は高い音が出る）／ピアノ／打楽器	1

表5-8「物」について

保育者		学 生	
（該当者なし）		筆箱を鳴らすとき／物を落としたとき	1

幼児期の子どもの感性と気づきについての保育者の理解に関する研究

表6 質問5「自分自身のことでこの1週間で気づいた音」についての有無人数

	保育者	学 生
ある	12	14
ある（コメントなし）	1	0
ない	32	36

表7 質問6「自分自身のことでこの1週間で気づいた音」の具体的回答（表7-1～表7-4）

表7-1「自然物」について

保育者		学 生	
風で木の葉っぱが揺れて鳴ったとき／風で沢山の葉っぱが落ちてきたとき／キャンプファイアーで薪が燃える音／虫の音色が夏から秋に変わってきた／バツをあげたら聞いたことのない音を出した／10月なのに蟬の声が聞こえた／朝、子どもがいない園庭で、聞いたことのない音だと思ひ探すと、ケヤキの実がテラスに落ちている音だった	1	雨が傘に当たる音が、雨の量によって違う／雷の音	1

表7-2「物」について

保育者		学 生	
土嚢運びをしていた時、地面に落とした音／お風呂場のドアの開け閉めの音／幹線道路から聞こえるトラックのクラクションやサイレン／周りの人が物を落とした音／焼き物のカップの底をスプーンで混ぜたときの音	1	自分の車と友達の水の音の音が違う／素足でサンダルで歩いたときに空気か何かの大きな音がした／BeRealの通知音／黒板消しから出る音が新しい物だと高い音が出た／目覚ましのアラームを警戒音にすると目覚めが良くなる／スタートのピストルの音が低学年と高学年で音の違いがある／小さな打ち上げ花火の音にさまざまな種類の音がある／マーチング練習をしていたとき、先生の指導で叩き方を変えると、大きな音になった	1

表7-3「身体」について

保育者		学 生	
お腹を膨らませて叩くのと、へこませて叩く音が違う／お腹を膨らませて叩くと面白い音がする	1	くしゃみの音にビックリする／授業中、学生が突然動いた音にビックリした	1

表7-4「遊び」について

保育者		学 生	
どろんこコーナーで、子どもが土が固まった物を掘り起こし、シャベルで叩いた音／風船遊びで、風船が割れた音	1	小学生が溝に砂や石を落としていたとき、砂を落とした音を初めて聞いた／砂場で遊んでいる子どもが、さらさらって言っているといい、一緒に砂の音を聞いた	1

ての質問である。日々の保育の中で、どのように子どもたちと関わっているか、その中で子どもの感性や表現をどのように捉えているかの質問である。

そこで質問7について、45人保育者の総抽出語数1420、異なり語数304が得られた。

表8は抽出リストコマンドで得られた結果から、出現回数3以上の抽出語と各出現回数をまとめた物である。KHコーダーによる分析結果を示す。

上位の単語は「子ども」「表現」「感じる」「気づく」「考える」「思う」「心がける」「発見」といった語が挙がった。その他出現する語とその出現回数は表10の通

りである。共起ネットワークによる共起語を可視化した結果、図1に示した。強い共起関係ほど太い線で描画されて、出現語が多い語ほど大きい円で描かれている。

Jaccard係数上位60に設定した分析では、「言葉－代弁」「子ども－表現－感性－出来る－発見－共感－気づく－大切－伝える」「保育－考える－一緒－関わり－日々－楽しむ」「耳－大人－聞く－傾ける」「見る－目線」「自分－環境－作る」「思う－接す」「面白い－楽しい－気持ち」といった後に高い共起関係が示されていた。

それぞれの文脈を読み取り、カテゴリー化すると、

表8 質問7「子どもの感性や表現を保育者として、大切に考えていることや、心がけていること」の抽出語

出現回数	抽出語
48	子ども
15	表現
10	感じる
9	気づく 考える 思う 心がける 発見
8	感性 共感 できる
7	見る 言葉 保育
6	一緒 気持ち 大切
5	楽しむ 耳 自分 受け止める 遊び
4	作る 代弁
3	楽しい 環境 関わり 傾ける 色々 触る 接す 大人 伝える 日々 否定 聞く 目線

「子どもを思い、どのように接するか」「子どもの気づき、感性や表現を共感する」「一緒に考えて関わる」「大人が耳を傾ける」「子どもを見る目線」「自分を出せる環境」「子どもの気持ちを代弁する言葉」「面白く楽しい気持ち」という8つのカテゴリーに分類することができた。

次に、図2の各クラスターの内容を分析すると、「一緒に楽しみながら関わる保育を考える」「子どもの目線を感じながら、否定しない環境を作る」「子どもの感性

表現を受け止めるように心がけ、子どもの気づきを共感できることが大切」「耳を傾けて聞く気持ちが大切」「楽しく面白い気持ちを持つ」「大人より子どもの感性が優れている」という結果になった。

保育者は、一緒に子どもと関わりながら、子どもの感性表現を否定しないで、受け止めることが大切と心がけていることが明らかになった。また、子どもの感性を認め、大切に考えていることが分かった。耳を傾けて聞く気持ちが大切ということは、日々子どもの言葉や表現を

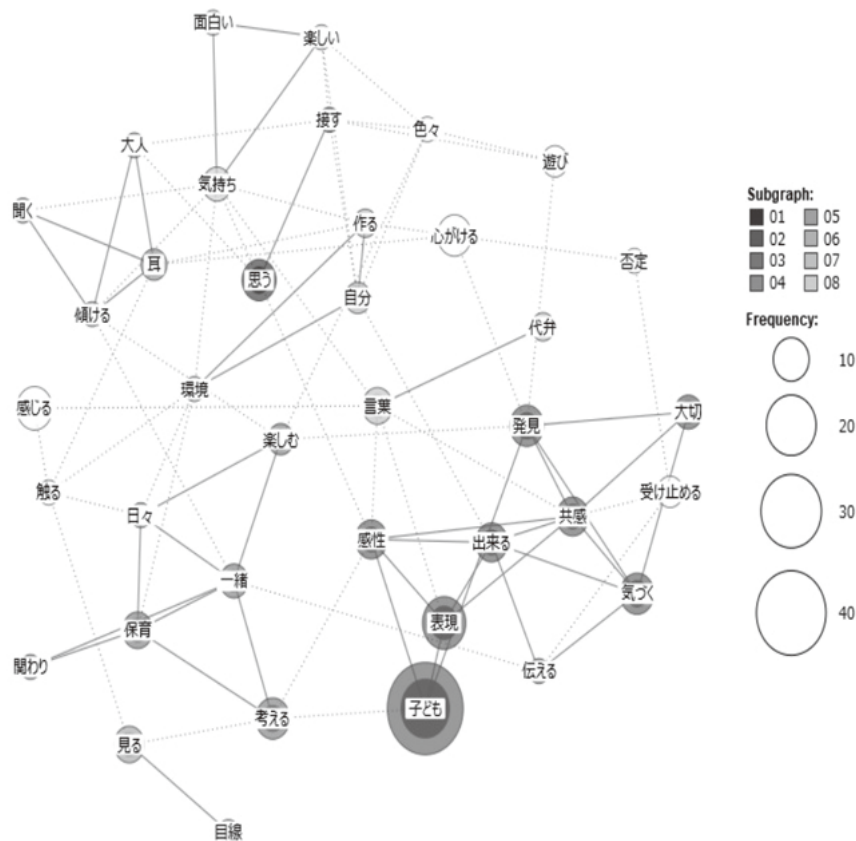


図1 質問7「子どもの感性や表現を保育者として、大切に考えていることや、心がけていること」の共起ネットワーク

子どもに寄り添って子どもの言葉をよく聞き、気づくように心がけていることも分かった。

(2) 学生について

質問7は、子どもの感性や表現について、学生として日頃から大切に考えていることや、心がけていることについての質問である。実習などで、どのように子どもたちと関わっていこうか、その中で子どもの感性や表現をどのように考えているかの質問である。実習を通して気づいたことや、大学での学びの中で自分が考えたことを述べていた。

そこで質問7について、50人学生の総抽出語数1406、異なり語数305が得られた。表9は抽出リストコマンドで得られた結果から、出現回数3以上の抽出語と各出現回数をまとめた物である。KHコーダーによる分析結果を示す。

分析方法(1)(2)により、図2のように共起ネットワーク内に6つのカテゴリーが現れた。

共起ネットワークによる共起語を可視化した結果を図3に示した。「日頃－受け止める」「思う－心がける－

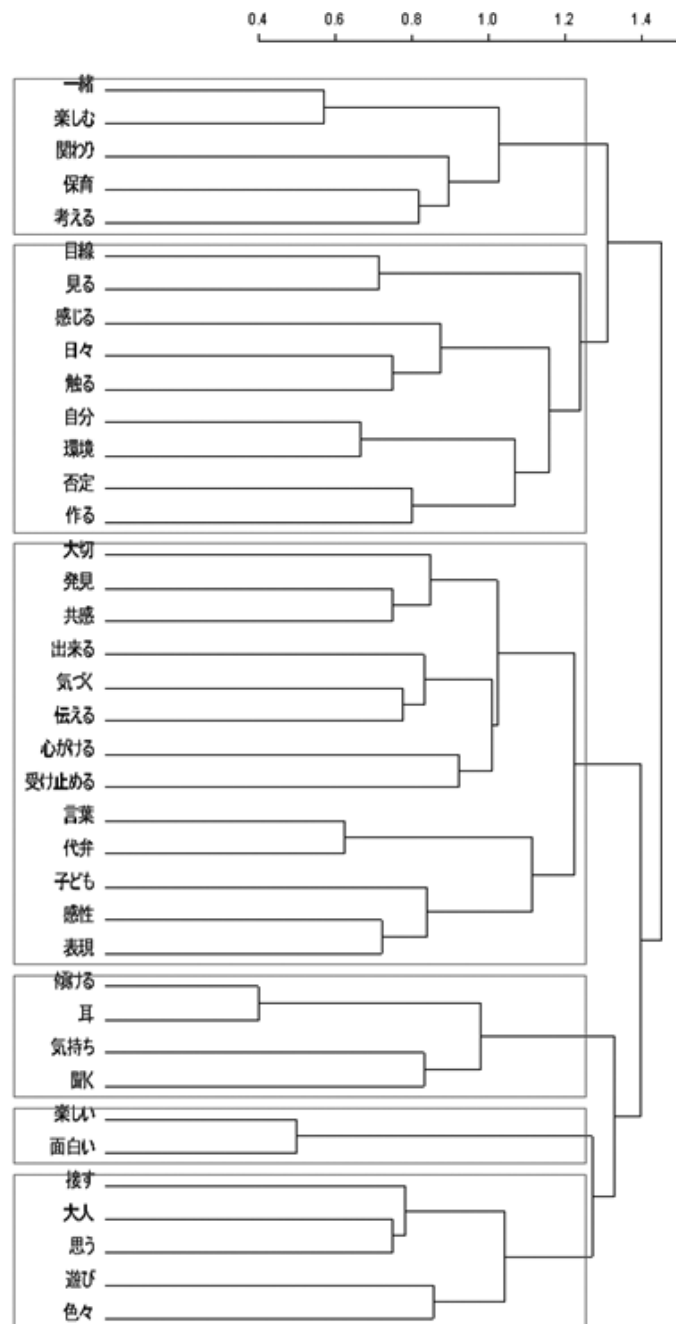


図2 質問7「子どもの感性や表現を保育者として、大切に考えていることや、心がけていること」のクラスター分析

表9 質問7「子どもの感性や表現を学生として、大切に考えていることや、心がけていること」の抽出語

出現回数	抽出語
45	子ども
17	感じる 考える
12	大切
10	音 感性 表現
8	思う 否定
7	自分 目線
6	心がける
5	気づく 自身
4	一緒 楽しい 疑問 興味 見る 認める 発見
3	意識 楽しむ 関わる 共感 見つける 受け止める 触れる 日頃 日常 聞こえる 遊ぶ 様々

思う－様々－見る－興味－認める」「楽しい－遊ぶ－触れる」「子ども－感じる－感性－表現－大切－考える」「自分－自信」「一緒－楽しむ－意識－共感－発見－関わる」といった語に高い共起関係が示されていた。それぞれの文章を細かく分析し、カテゴリー化すると、「日頃から子どもの感性や表現を受け止める」「子どもの様々な興味や疑問を認めることを心がける」「触れて遊ぶことが楽しい」「子どもの感性表現を大切に考える」「自分自身」「子どもと一緒に関わることを楽しみ、共感する

意識をもつ」という6つのカテゴリーに分類することができた。また、図4で示す語の出現パターンが類似した語の組み合わせを抽出する断層的クラスター分析を試みた結果、6つのクラスターに分類できた。

次に、図4の各クラスターの文字内容进行分析すると、「共感し、一緒に気づきを楽しむ」「自分も感性が豊かになるように心がける」「子どもの感性や表現は否定せず、受け止める」「子どもが楽しいと感じることを尊重」「日常生活にある音に気づく」「子どもの目線になって感じ

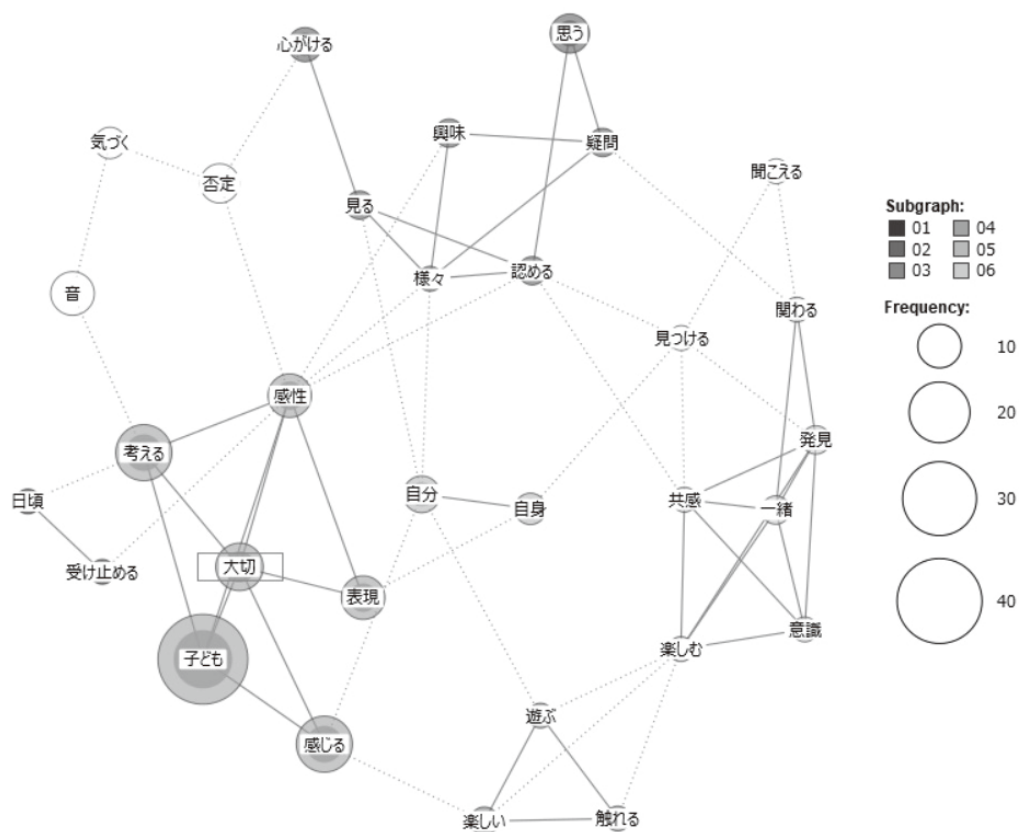


図3 質問7「子どもの感性や表現を学生として、大切に考えていることや心がけていること」の共起ネットワーク

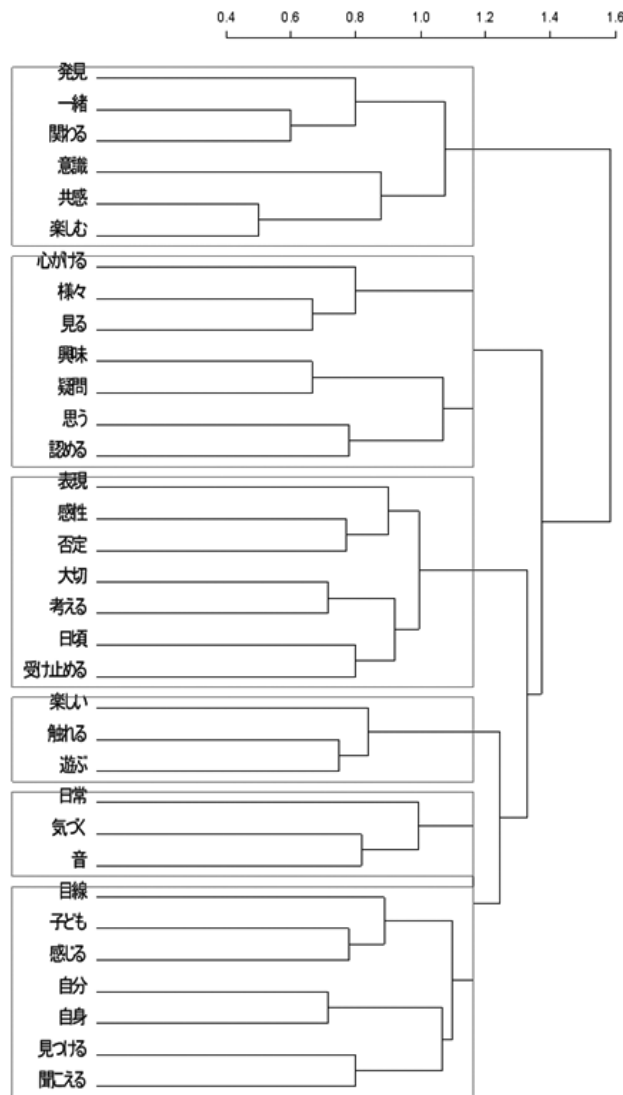


図4 質問7「子どもの感性や表現を学生として、大切に考えていることや心がけていること」のクラスター分析

る」という結果になった。保育者同様、共感することや、子どもを否定しない、受け止めるということを考えていることが分かった。

IV. 考察

今回の調査では、保育者と学生に、ある園の1歳児の寒天遊びの動画を見て、子どもの感じたことや気づいたことに関する質問、及び自分自身のことで気づいた音、そして、保育者、学生として子どもの感性や表現を、日頃から大切に考えていることや、心がけていることは何かという質問のアンケートを行った。その分析結果より、日頃から子どもと一緒に過ごしている保育者は、回答者数が学生より少ないにもかかわらず、回答を短文で分けたキーワード数は、学生よりも多かった。今回のアンケート調査では、アンケート回答前に視聴する動画の

中の子どもの姿は、静止画であるため、学生はその想像することが難しく、実習などで子どもと接する以外、関わっていない学生もいるので、子どもの感じたことや気づいたことに関することをイメージできなかったと考える。特に、子どもについての質問では、「気づき」「思い」「好奇心」のカテゴリーで、学生のキーワードが少なかった。特に、今回の動画の子どもが1歳児であるということも要因の1つと考える。

保育者は、具体的にイメージができ、回答がしやすかったと判断する。質問1を回答の中で、子どもを思い出すことによって、子どものネガティブな気持ちや動きの回答もあった。ネガティブな回答は、子どもと関わっているからこそ分かることと考える。

質問3.4における、「こんな音に気づいた」という質問においては、自然物のカテゴリーのキーワードが、学生は雨と雷しかなかった。それに対して、保育者は、虫

の声や、葉っぱの音、子どもがいない朝早い園庭での音など、さまざまな音に気づいていた。保育者は、子どもとの生活の中で、子どもが気づく音を共感したり、子どもがいる環境の中の音を自然に感じることから育つ感覚があると考えた。学生の気づいた音の中に、アプリの着信音という回答があった。学生の生活における電子音が多いことが分かった。また、実習直後と言うこともあり、教育現場で鳴っている音にも気づいたという回答もあった。普段聞かない音があり、環境によって、気づく音も変わることが明らかになった。保育者は常に、天気やさまざまな状況によって保育の動きが変わるため、それぞれの環境を意識的に感じ、いろいろな音を聞き、さまざまなものを見て判断することが多い。よって、今回のアンケートでも、保育者の方が、気づいた音も多いと考える。

最後に、幼児期の子どもの感性や表現を保育者としてまた学生として、日頃から自分自身が大切に考えていることや心掛けていることの分析結果を比較すると、保育者のカテゴリーでは、具体的に「子どもの思い」をどうするかということがあるが、「子どもの思い」は、学生のカテゴリーには出てこない。「一緒に考えて関わる」とあるが、学生は「一緒に関わることを楽しみ」だけになっている。保育者は、子どもと共にという姿勢が見られるが、学生は、自分主体で考えるカテゴリーとなった。学生は、まだ自分が主体にあり、子どもと一緒に、子どもが主体と頭では理解していても、気持ち的には、自分が主体でしかまだ考えることができないと考える。

はじめにで示した領域「表現」の内容で「風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること」と記されている。保育者は、日常の保育の中で、意識して子どもと取り組んでいるが、全員の保育者が気づいているとはいえない。また、学生は、日常生活の音などに気づくことが大切と理解はしている段階である。よって、幼児の感性や気づきを保育者として捉えられるようになるためには、保育者、学生も自らの感性を磨くことやさまざまなことへの気づきが日々の生活の中で、必要であるということが考えられる。

V. まとめと今後の課題

考察で述べたとおり、幼児期の子どもの感性や気づきについて、保育者と学生のアンケート調査において、差

異点が認められた。その中で、子どもの感性や気づきを捉えるには、子どもの様子や子どもの動きを知ることが大切ということが分かった。また、保育者としても、感性を豊かにするために、五感を使い、自分自身がさまざまなものや音などに気づくようにすることが、子どもの感性や気づきをより理解することに対して必要であるということも分かった。しかし、学生は大学の授業や自分の生活に追われて、なかなか五感を使って気づくということが少ない。特にスマートフォンを手放すことができず、長時間スマートフォンとの接点がある学生が多い。だからこそ、自ら意識的に、五感を使って自然の音やさまざまな気づきを大切にすることが必要である。学生時代に、五感を使って感じるができるようになれば、保育者になった際、子どもの感性や気づきをより感じることができると考える。このことができれば、保育にも影響し、より子どもにもいい環境が生まれることになると思う。

今後の課題として、より多くの保育者や学生の調査によって、子どもの感性や気づきに関する理解の共通点や差異点を明らかにし、保育者として、また学生としての課題を明らかにすることが必要と考える。

注

- 1) KH コーダーは樋口によって開発され、分析者の主観を排除した、文章データテキストデータ分析用のフリーソフトで、近年ではアンケート調査のような分析に多用されている。テキストマイニング、計量テキスト分析と呼ばれる方法である。

文献

- 1) 厚生労働省 (2017). 保育所保育指針.
- 2) 吉永早苗 (2013). 幼児期における音感受教育—モノの音・人の声に対する感受の状況と指導法の検討—. 白梅白梅学園大学大学院子ども学研究科博士課程学位論文, 2

謝辞

本論文作成にあたり、大変多くの方々にご支援、ご協力賜りました。

お忙しい中、調査にご協力していただいた、認定こども園あとりえらば遊育園の動画使用許可、認定こども園A・B・C園の諸先生方、及び保育養成大学学生の皆さまには、厚く御礼申し上げます。

付記

本論文に関して、開示すべき利益相反事項はない。

